

東大和市の魅力 -歴史と自然-

多摩湖（村山貯水池）



村山下第一取水塔（左）
村山下第二取水塔（右）

東大和市のシンボルともいえる多摩湖。主に多摩川からの水を貯水する人工湖で、昭和2（1927）年に完成して以来、東京の水がめとして人々の暮らしを支え続けています。日本で一番美しいと言われる取水塔もあって、新東京百景にも選ばれました。また、緑の豊かな狭山丘陵に囲まれているため、新緑、紅葉、雪景色など、四季の景色の変化が楽しめます。



村山貯水池は、上貯水池と下貯水池の二つの貯水池からなり、二つの貯水池の間にある村山上ダムの上を通る道からは、狭山丘陵の自然に囲まれた貯水池の絶景が眺望できます。



旧日立航空機株式会社変電所



市民の憩いの場である都立東大和南公園がある場所は、戦時中、飛行機のエンジンを造る軍需工場でした。

建物のほとんどは昭和20（1945）年の空襲で破壊されました。しかし、変電所だけは奇跡的に生き残り、機銃掃射の弾痕を残しつつ、平成5（1993）年まで変電所として使用されました。

平成7（1995）年に東大和市の史跡に指定され、戦争の悲惨さと平和の大切さを無言で訴え続けています。

東大和市立郷土博物館

狭山丘陵・東大和市立狭山緑地の南端に位置し、「狭山丘陵と暮らし」をテーマに、郷土の歴史、民俗、自然に関する資料を展示しています。

また、併設のプラネタリウムでは、プラネタリウムクリエイター大平貴之開発の「MEGASTAR-II B」を都内で初めて導入しました。本物のような夜空を楽しめます。

狭山緑地のアスレチックコースを楽しんだ家族連れなども多く訪れています。



三光院



創建年代は不詳ですが、真言宗豊山派の寺院で輪王山真福寺と号し、もとは下貯水池の取水塔付近にありました。村山貯水池の工事により大正12（1923）年に現在地に移転しました。

江戸時代に幕府から土地を与えられたことを示す15通の御朱印状（うち3通は氷川神社宛）は、市の指定文化財となっています。

静かで手入れのゆきとどいた境内の庭園も魅力です。